



The Royal Photographic Society

Patron: Her Majesty The Queen. Incorporated by Royal Charter

NEWS LETTER 第 20 号 2011/06/05

発行所 英 国王立写真協会、日本支部
〒 107-0051
東京都港区元赤坂 1-7-10
元赤坂ビル 9F
Tel 03-5413-7829
Fax 03-5413-7410
E-mail : yoshi-rpsj@hotmail.co.jp
発行人 豊田芳州 編集人 川村賢一

<http://www.rps-japan.org>



(写真) 豊田芳州 Pavilion

第 9 回日本支部写真展開催

Feel British?

2011年2月18日-24日、フレームマンエキジビションサロン銀座(東京銀座5丁目銀座ファイブ2F)にて、第9回支部写真展を開催した。

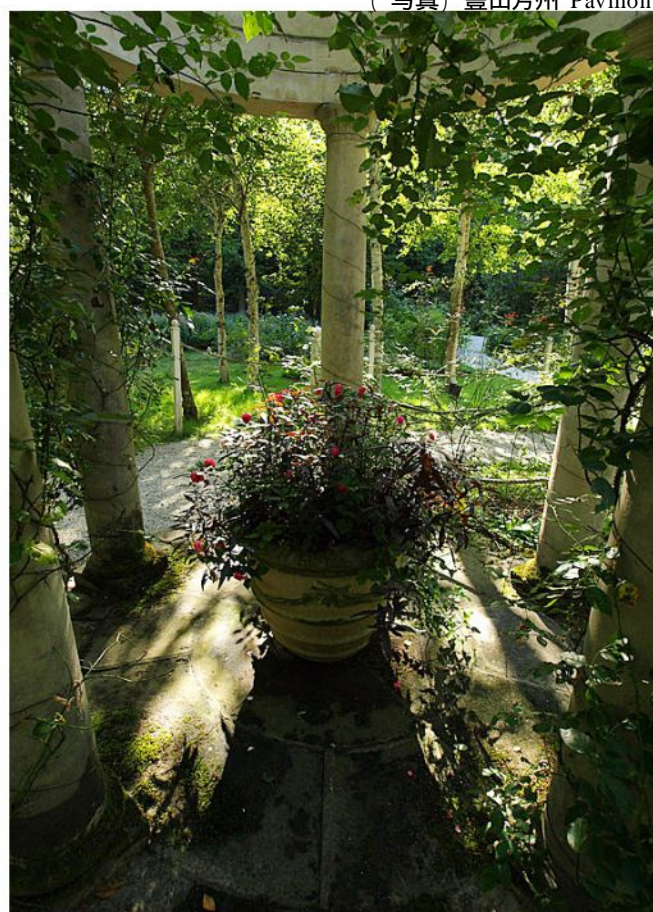
日本は英国から多大な影響を受けてきた。政治、鉄道、郵便制度、庭園、建築、演劇、語学、教育、スポーツ、音楽、ファッション、ライフスタイルなど、私たちの日常生活に深く浸透している。

そこで、今回は、昨年の来場者からの要望なども踏まえ、本部のあるイギリスをすこしでも紹介できたらという趣旨で、「Feel British? イギリスはいってどんなこと?」をテーマに、イギリス再発見を試みた。

本場イギリスの風景や人々のほかに、日本国内および国外で探した英国風スピリットを撮影した50点が集まり、あらためてイギリスとの関わりの深さを感じた。

直前に日曜休館というアクシデントにもみまわれたが、概ね350人の来訪者があり、日英協会関係者の他、ブリティッシュヒルズやマスコミ関係者の来場もあり、まずは盛会の内に終了した。

また、初日、近くのピアホールで開かれたオープニングパーティーには、初代理事長の青木名誉会員も久々に出席され、関係者を含め30人余の参加者で盛り上がった。



第5回 リレートーク研修会

2010年11月3日(水)、東京六本木「霞会館」にて、三宅会員により第5回リレートークを開催する。

三宅会員は40～50代に約10年間、証券マンとしてイギリスに滞在。その間、英国の伝統的な生活と正統的なつきあいを体験し、帰国してから本格的に写真と俳句を学ばれたということで、リレートークでは、「写真と俳句」および「英国と日本」について紹介していただく。

参加した豊田会員は、「俳句を詠むことにより被写体(対象)と写真家の関係がより親密になるように感じました。」と感想を述べている。

『二つの世界』

三宅善夫



前編「写真と俳句」

写真にかかわるきっかけは、長兄がライカとローライコードを持ち、自宅に暗室を造っていたので、その影響が強いです。その後、証券会社の国際部で外人の接待、海外出張などの記録としてカメラを使ってきました。

1985年10月に帰国したとき、社団法人・日本証券経済倶楽部に入会し、その文化活動で写真と俳句の会に入りました。

写真は、富士写真フィルムの高石泰次先生とコニカの松野正雄先生(皇室写真家)の指導を20年間受けました。人物と祭りが中心で、神田明神、浅草三社、鳥越神社、博多山笠、長崎くんちをメインにして、祭りの人間関係を大切に、幅を広げず深く撮影してきました。

俳句は、学生時代に俳句ができないと卒論をうまく書けないと言われて始めました。

1985年の帰国当時、自己流でしたが本気で写真俳句を始めました。NHKの番組より早い時期だったと思います。俳句は石川黛人先生に指導いただきました。1枚の写真に一つの句を添えますと、撮影の背景、心理状態などが走馬灯のように浮かんできます。

2007年、NHKは「フォト575クラブ」という番組を開始しました。「かけがえない一瞬を、忘れない思いを、写真と言葉で描いてみませんか」というキャッチフレーズでした。「松尾芭蕉はカメラマンだった」とNHKの番組で解説がありました。芭蕉の鋭い観察力と洞察力はカメラマン的であるということなのでしょう。また、俳句と写真のアナロジーを伝えたかったものと思われまます。

写真と俳句の共通性に「現場主義」が挙げられます。どちらも情景を前にしてシャッターをきり、句を詠む点は同じです。私は自分で見てきた、訪ねてきたところ以外は詠まないことにしています。

こたつに入って、俳句歳時記を見ながら上と下をいろいろ組み合わせると立派な句ができますが、そういう句は、すぐ先生にばれます。

写真と同様に、最近はずっとカメラを持っているので、どこへ行っても写真を撮りながら良い句ができるなと思っていても、帰りには忘れていきます。あまりにたくさん撮影するからでしょうか。俳句では写生と言いますが、写生とは被写体を自然に正確に撮影することに匹敵すると思います。

次に、家に帰ってパソコンで明るさやトリミングを調節します。これは写真の応用技術になり、俳句の推敲に匹敵すると思います。しばしば、先生に指導を受けると格調の高い句に完成します。写真でも後で調整しないと写真のクォリティーは撮ったときのままで終わってしまうと思います。

写真と俳句に共通する大事なことは、心ではないかと思います。俳句は、何をどう感じたのか、心理描写で心の動きを詠み込むことが必要ですが、写真も迫真的な雰囲気や感情など人々に訴えるような心の状況が込められた写真を撮りたいと思います。撮影会に対して、俳句では吟行というのがあります。例えば、10人ぐらいで場所を選んで出かけていっていくつか句を詠みます。お昼に集合してそれぞれ5句ずつ提出して、50句を合評して順位を決めます。その中に自分の句が入っているか否か、厳しい判定が下されます。俳句には、たいへん競争的でタフな一面もあります。

写真と俳句を一体化した権威ある元祖は、伊丹三樹彦(1920年-)という方です。1969年(昭和44年)に「ヨーロッパ吟旅」を実施し、帰国後、写俳運動を開始しました。40か国で写俳活動を続けていらっしやるそうです。



(熱のこもった解説)



(色紙にまとめられた作品)

私の 写真俳句を ご 披露します。(- 部)

鳥の眼に
合焦マ-ク
寒、桜

第天



「合焦マ-ク」という言葉は、俳句しかやらない人にはわかりません。俳句の練達な方々には、「合焦」は良い言葉という評価を得ました。俳句にも「ピント合わせ」があるということでしょうか。

夕焼けに
明日の幸せ
祈りつつ

第天



私が撮影したモデルさんでは、この人がいちばん美人でした。現在はアメリカへ行って女優になっています。伊豆の撮影会で、シャンパンを飲む場面を撮りました。渡米することわかっていたので、祝福の気持ちで詠み、撮影しました。

教子子の
美しくあり
五月晴水

第天



今年の長崎くんちの当番が諏訪神社へお参りにいった帰りを撮影したものです。モデルの女性は知り合いで、活水女学院の卒業生です。句会で評価されたとき、状況を聞かれたので、キャビネ判のこの写真を見せて納得してもらいました。

巖そばに
献茶の儀式
若葉風

第天



去年の神田明神の献茶式です。撮影をお願いしたところ、宗匠さんから正客の席を与えられました。移動してもかまわないと言われましたが、静寂の中でシャッター音が気になり、緊張してあまり撮れませんでした。

啄木忌
白砂に跳ねる
少女あり

第天



撮影会で、下田の海岸へモデルを連れて行って撮影しました。暖かい春の海の情景を詠みました。「啄木忌」(4月13日)は春の季語です。

風車
百万弗の
笑顔かな

第天



私の孫の写真です。これほどの笑顔はめったに見たことがありません。風車は高校の体操部の先生からいただきました。竹細工が得意な方で、いろいろなところへ竹細工を寄付していらっやいます。現在100歳です。この写真も私の思い出になっています。

後編「英国と日本」

まず、私と英国のかかわりについてお話しします。

1974年、会社の英国進出の足掛かりとして派遣されて以来、予期もしない10年の滞在になりました。英語のプライベート・スクールに始まり、200年の歴史を持つ英国第一位の証券会社のトレーナーとなり、難しかった事務所開設認可とレーパー・パーミットを取得し、事務所開設、支店昇格、現地法人の設立までこぎつけました。

その後、スイスとフランスでも事務所開設、現地法人を設立しました。人脈の広がりからオランダに合弁会社を設立、当初3年の滞在アサイメントであったはずが、10年が経ちました。

これが当時のパスポートであり、無期限滞在許可を取得しました(写真)。分厚いのは、永久ビザがシールで留めてあるからです。仕事の関係で訪れた国は41か国になります。



British Passportも取得できたのですが、それにより日本国籍を喪失しますよと日本大使館に言われ、断念しました。

10年間の勤務期間には、悲喜こもごも得がたい経験をしました。日本からの派遣社員は当初2名でしたが、のちには100名を超える所帯になりました。

証券業から冠婚葬祭、出産、教育問題、エンターテインメント、テニス、ゴルフ、サッカー、旅行など、いろいろなノウハウを会社のためだけでなく、続々と対英進出される日本企業の方々にもお伝えしました。

当時働いていた三洋証券の土屋会長のおかげで、随員としてエリザベス女王陛下に拝謁する機会もありました。残念ながらその時の写真はありません。そのレポートを会長が社内誌に書かれたもののコピーがありますので、ご披露します。招待状はコピーをご覧ください。

女王陛下にお会いするときは特別な言葉使いがあり、こちらから話す場合は、Your Majestyと申しあげ、お言葉を賜ったときには、Yes, Mam.でお答えいたします。大使などにはYour Excellency...を使います。皇室の方々にはYour Highness...で始まります。

英国ではクラブ組織が大切で、どこの会員であるとか、だれだと親しいかがつきあいで大切になります。

“My word is my bond”(言葉は証文である)ということが大きな教訓でした。文書を取り交わしていなくても一度言葉になったことには責任があります。これを守らないとつきあってももらえません。これが証券取引はじめ商取引の基本です。

英国人と米国人の違いは、「ドアが1枚あるか2枚あるか」と先輩の教えがありました。最初のドアはすぐ開かないのですが、いったん親しくなると一生の付き合いに発展します。いまでもいろいろな方々とクリスマスカードを交換しております。

公私の思い出になる写真を整理しなければと思います。私の会った国内外「100人の人」の写真集は何とかしたいと考えています。すでにデータは100人以上集まりましたが、肖像権の問題もあり実現まで時間がかかりそうです。

Feel British?



Terrace

(豊田 芳州)



British Morning

(川村 典子)



RMG0292-2.jpg

Dear Mr Kawamura

The devastation suffered in Japan over the last week following the earthquake and tsunami has horrified us all. The scenes on the news are dreadful and there is the ongoing additional threat from the nuclear power station. The staff and trustees join me in expressing our concern and are thinking of you at this time and hope that you, your family and friends are safe. With regards

Stuart Blake
Director General

R P S 本部より地震お見舞いメール

(編集後記)

本号は、当初3月の予定だったが、3月11日の大震災の影響で、耐震診断への対応に追われ、大幅に遅れてしまった。会員の皆様やご家族は、ご無事だったでしょうか。信じられないほどの現実を未だに100%受け止め切れませんが、明日は、我が身かもしれません。被災された皆様のご冥福をお祈りするとともに、長期の支援を続けたい想いです。

地震の数日後には、R P S 本部からお見舞いのメールが届いたので、即刻支部としてお礼のメールを返信しました。

支部の活動は、より多くの会員が参加し、楽しく活性化するように、皆さんの積極的なご意見をお待ちしています。

(川村)